



九州聖化交友会々長に聞く

聖書的な聖化の宣証を

イムマヌエル綜合伝道団
福岡教会牧師

國重雅治

十月二十一日の関東聖化大会に続く東海、関西、岡山の各聖化大会に加えて、九州においてもサムエル・T・カマレーソン博士をお迎えし、十月二十八日に第十三回聖化大会を開催する運びとなりました。

一九八〇年に日本聖化交友会々長故本田弘慈先生と書記岸田馨先生の「九州にも聖化交友会を」との呼びかけに賛同した九州各地の聖潔派の牧師十二名が、その年の六月二十九日に福岡貯金会館に集まり九州聖化交友会を結成しました。

その席上、出席しました牧師らが役員に就任し、初代会長に当時日本ナザレン教団熊本教会牧師の磯崎國和師を選出しました。早速、関東聖化交友会の規則をもとに九州聖化交友会規則を作成しました。関東聖化交友会規則第三条の目的のところに「本会は日本聖化交友会（JH A）の一翼として聖書の聖化の振興の宣証、…」の「宣証」ということばの使用について特に意見が交わされま

した。それは「宣証」という言葉が

通常使用されないからです。しかし、「宣証」に代わる良い言葉がないことから、九州聖化交友会の規則にも「宣証」を使用することにしました。

「宣証」の「宣」は「広く、はっきり知らせる」であり、「証」は「あかし」でありますから、聖書の聖化を経験し、それを多くの人々にはっきり知らせることを意味するのでしよう。聖書の聖化の宣証が日本聖化交友会、各地の聖化交友会と九州聖化交友会が結成された目的でありました。

ジョン・ウエスレーは「キリスト者の完全」のなかで、ロンドンの監督ギブソン博士から完全とは何を意味するか、と問われたときのことを記しています。ウエスレーがギブソン博士に包み隠すことなく説明すると、ギブソン博士は「それは全世界に発表したまえ。もし誰かが君の言うことに反論できるなら、自由にさせるが良いであろう。」と語りまし

た。

そこで、ウエスレーは標準説教五三に収録されている説教四十「キリスト者の完全」を発表しました（キリスト者の完全二十ページ、竿代忠一訳、日本ウエスレー出版協会）。

イザヤ書六章に預言者イザヤのきよめと宣教への召しが記されておりますように、福音を証する者にとりまして聖書の聖化はまことに大切なことでもあります。今日に至るまで各地の聖化大会は「聖書の聖化の信仰の宣証：」を目的として開催されてきました。大会を開催するに際し、広くキリスト教界全体に聖書の聖化を宣証することが、神から私どもに託された重要な責務ではないかと考えるものです。

今年も各地の聖化大会と九州聖化大会において聖書の聖化を力強く宣証し、日本と世界の宣教活動に神の栄光を拝することができるよう、祈っております。

召天された「神の器」を偲ぶ

先般、相次いで天にお送りした、日本聖化交友会々長・本田弘慈先生（2002年4月6日召天、90歳）と元関東聖化交友会副会長・松木祐三先生（2002年2月13日召天、67歳）を偲びます。

本田弘慈先生を偲んで

日本聖化交友会々長、本田弘慈先生は、今年四月六日九十歳の天寿を全うして天に凱旋された。現職の会長を失い、残された私たちに与えられた衝撃は大きく、偉大な伝道者、教師であった先生の存在感はずいぶん知れないものであったと感謝に溢れている。

先生は伝道者として、天与の賜物を持ち、戦後の伝道に貢献され、教派を超えて国内、国外を問わず用いられ、多くの人をキリストに導き、入信決心、直接献身の応答を励まされた。そればかりか、多くの聖会に招かれ、「聖化の恵み」を語る、きよめのメッセンジャーであったことは、周知の事実である。

日本聖化交友会として、先生にささげる感謝の第一は、彼は日本の教会の聖化とリバイバルのために、真剣に祈り、率先してその必要を訴え、犠牲を払って国内の各地を訪れ、その運動を励ましてくださったことである。

今年、関東聖化交友会は第十七回目の聖化大会を迎えるが、その開催の二年ぐらい前から準備は進められた。福音派の組織化についてはJPCが発展的にJEAとして陣容が整えられ、超教派の伝道

協力も進展していた。しかし、靈的躍進のために、聖化の強調と実践が必要であるとの認識から、I G Mの朝比奈先生がたの主導で、聖めを宣証する運動体の全国組織化のために準備的な会合が、数回に亘ってお茶の水で開催された。その時、中心的な指導者として推されたのが本田先生であり、地域として賛同の手をあげてくださったのが長島先生であった。

感謝の第二は、本田先生が超教派のエバンジェリストとして、全国にその働きを展開される関係で、きよめ派ではない各派、教会の協力が不可欠であるのに、自らきよめ派の教師であることを鮮明にし、日本聖化交友会々長の役割を確信と誇りをもって提示して下さったことである。先生は自らの掲げて立つ信仰を明確にしながら、立場を異にする教派、教会からの招致に對しても、広く柔軟性をもって対応され、みことばの奉仕と宣教に仕えられた。そこで語られる聖化のメッセージは、ガラテヤ二章二十節であり、聖化大会で語られるそのものであった。彼の大胆なきよめの証しが、普遍的なものとして、すべてのキリスト者の共感を得たであろうことは言うまでも

ない。

感謝の第三は、人はきよくあり得るかとのテーマに沿って、「聖化の恵み」を始め、聖化にかかわる著書を多く書き残して下さったことである。すべてを列挙できないが、そのすべてがわかり易い平明なことばで、きよめの本質、必

聖化に裏づけられた誠実さを生きた松木先生

あれは、松木先生が聖書学院の二年生、私が三年生の時だったと思います。彼が、一人で祈っていてもどうしても突き抜けないので、一緒に祈ってくれというので、夜も更けた頃ではありましたが、教室の一角に二人で座り込んで祈り始めたのでした。

はじめはなんとなく堂々めぐりのような祈りをくり返していましたが、何時間かたつてからでしょうか、これだけはと秘めていたあることを、すべて明け渡すべく、彼はご聖霊に示されたようでした。主のご臨在の前に全く打ち砕かれた彼は、鼻水と涙でくしゃくしゃになりながら真実な祈りをささげ、遂にそこで勝利を得たのです。それが彼にとつての聖化の経験でした。

松木先生と言えば、誠実にホーリネスを生きた人とは、彼を知る誰もが認めるところ。それは誠実に、きよめられる方法、その実践、主要な助け手である聖霊の働きと懇切、丁寧に記されている各書は、私たちキリスト者の靈的資産であり、これからも語り継がれる「聖化」のメッセージである。（日本聖化交友会書記・岸田馨）

に聖さを生きたことであることは言うまでもありませんが、それがみ言葉の深い味わいとその説き明かしに表われ、きめこまかい行き届いた牧会姿勢にも貫かれていました。

彼の容態が急変したとの知らせを受けて病院にかけつけた時にはもう間に合わず、果然と彼の側に立ちつくし、溢れる涙をこらえながら、思わず「まじめ過ぎたな、お前は」と呟いてしまったのでした。神学校教育と共に、教団委員長としての重責やその他外部での責任など、全く手抜きなしの誠実さそのもの、彼はその誠実さに殉じたと言っても過言ではないでしょう。その誠実さは聖化に裏付けられたもの、その原点は、あの夜にあったなあと思ひ起しております。

（関東聖化交友会々長・村上宣道）



「受けた恵み、伝える喜び」～聖化大会を期待して

第17回関東聖化大会実行委員長

チャーチ・オブ・ゴッド瀬谷グレース・チャペル牧師

伊藤 昭吉

今年の四月六日、日本聖化交友会の会長であり、この運動の生みの親の一人である本田弘慈先生が天に召されました。先生が生涯を傾けて情熱を注がれたのが、「きよめの宣証」でした。先生があるとき「わしはいろゆるな働きに關わって来たが、きよめの宣証の運動だけはどうしてもしなければならぬ働きだった」と述べられていたことを忘れる事ができません。そして今より十七年前の一九八五年十二月に日本聖化交友会が発足したのでした。以来、先生はその情熱を傾けてこの運動に取り組みました。そしてこの働きを担当する者たちのために祈り、励まし時には叱咤して指導してこられました。

今年の関東聖化大会のスローガンは「受けた恵み、伝える喜び」です。「ホーリネス信仰の継承」が今大会のメインテーマです。先に長島幸雄先生、萬田眞實先生を、そして今、本田弘慈先生を天に送ったこの年に、私たちは「受けた恵みを喜びをもって伝える」大会にしたいと祈り願っております。

今年の主講師は、元ワールド・ヴィジョン副総裁をされたサミュエル・Ｔ・カマレーソン博士です。博士はインドが生んだ優れた霊的な指導者です。実に東奔西走、各国の霊的な必要に応じて奉仕されている神の器です。博士には二回の聖会と一回のセミナー、女性大会と青年大会のメッセージを担当していただきます。大いに期待できる集会になると確信しています。

初の試みとなる「青年大会」に是非ご参加を!!

今年の邦人講師による講演は東京聖書学院々長である小林和夫先生が担当されます。演題は今年のテーマに沿って、「信仰の継承について」です。先生の学識を駆使して語られる講演に耳を傾けながら、私たちは興味が湧いてくる所を確認したいものです。

今大会の特徴は、昨年の延長拡大路線として「青年大会」を計画したこととです。これまでの二日間を三日間に日程を増やし、最初の日の夕から各教会の青年たちによる「青年聖化大会」になります。多くの若い兄弟がこの大会に出席されることをお勧め致します。

また、昨年大変好評だった青年牧師による分科会を今年も三日目午後後に計画されています。テーマは「聖化と青年」「聖化と人間性」「聖化と文化」「聖化と教会形成」「きよめと高輪化」の五つのグループに分かれて行います。聖化の恵みをより生活に密着した関係で捉えて行こうとする意気込みが感じられます。

また聖会第三夜には、古波津保秀先生の指揮による神学生合同のコーラスがあります。これは実に感動ものです。コーラスの素晴らしさもさることながら、若い神学生がやがて宣教と教会形成のために派遣されることを思うとき胸の高鳴る思いを禁じえないひとときです。今大会のテーマである「受けた恵み、伝える喜び」がそのまま実現されて行くのを見る思いです。

今大会に諸師、諸兄弟が多くご参加されることを切願しています。

■主講師プロフィール■

—本年の関東、東海、大阪、備前、九州の各聖化大会—

サムエル・Ｔ・カマレーソン博士

Dr.Samuel Thodore Kamaleson

サムエル・Ｔ・カマレーソン博士は米国在住のインドの器で六代目のクリスチャンとして南インドで誕生され、アデラ夫人と、独立された三人のご子息がおられる。獣医師を目指していた学生時代に、明確な個人的な回心を経験され、直接献身に導かれて召命に就き、米国アズベリセミナーで、神学と声楽の修士課程を終えられる(M.Div, およびM.Th)。エモリー大学で神学博士号を取得された。

インドでは、母教会であるチエンナイ市(旧名マドラス市)在のインマヌエル・メソジスト教会の、初代現地人牧師として、毎主日約五〇〇名が集う祝された伝道・牧会を経験。ちなみに、十五年の奉仕期間中に四十五名の献身者が起こされた。教区長、エバンジェリストとして活躍され、米国では、ピロ・リース博士の後継者として、国際ワールド・ヴィジョンの副総裁を二十二年間務められ、二年前に引退され、顧問的な立場で奉仕を続けるかたわら、母国インドの宣教団体の指導や、諸教会の講師を務め、また、世界各地で聖会、修養会、牧師研修会の講師として活躍しておられ、著書に、「イエスの変身する力」他があり、また若き日より麗しい賛美の賜物を与えられ、レコード四点を収録しておられる。アズベリセミナーの客員教授の奉仕をもしておられ、力強い、スケールの大きなメッセージと靈感に満ちた賛美は、大きな祝福としてまさしく神の手に握られた器の一人である。

地域だより

第14回札幌聖化大会報告

この度は、書記としてJHAのまとめ役をしてくださるシオン・キリスト教団茅ヶ崎教会の岸田馨先生を講師としてお迎えし、五月二十一日(火)、二十二日(水)の両日、北海道クリスチャンセンターにおいて開催された。

■セミナーと聖会

岸田先生は、まずセミナーにおいてテトス書から「牧会と聖化」と題して、「きよめの恵みは、パウロの原体験の模倣ではなく、後継者自身が弱さと壁を越えて追体験する祝福であり、神に選ばれた民の特権である」と強調された。

また三回の聖会においては、第一ペテロー・13・1・2・1、第二コリント六・9・20、ヨハネ十五・1・11、から、きよめを、高嶺の恵みとしてよりもむしろ、足元にしっかりと踏まえるべき恵み、日常生活の中で日々与えられる恵み、としてお語りくださった。

■証し

三回の聖会での証しには、美幌、釧路、札幌から出席された教職と信徒が立てられたが、具体的体験的なお証しによって、きよめの恵みへの確信と励ましを与えられた。

■教職歓迎会

今大会でも、札幌近郊からはもとより、網走、美幌、釧路、根室、旭川、静内、岩見沢、芦別など道内各地から出席された教職者とそのご家族をお迎え

しての歓迎(食事)会は、講師も交えた、幸いな交わりの時であった。また、岸田先生から、本田弘慈先生の最期のご様子をお聞きし、一同で主の御名を崇めた。

■本田先生、松木先生への感謝

本田弘慈先生と松木祐三先生のご召天に対して、改めて哀悼の意を表すると共に、JHAへのご指導に対して、また特に当聖化大会の講師としてのご奉仕に、心から感謝をお捧げするものである。

■展望(交わりの提案)

講師の岸田先生から、関東聖化大会における青年層へのアプローチの試みについてご報告があったが、それはまた当聖化大会を含むすべての地区の働きにおける、追られた課題ではないかと思われた。ところで、信仰の継承の為に、聖会やセミナーの開催と共に、同じ信仰に生きる者たちの出会いや交わりが、決して小さくない意味を持つ事を忘れてはならないと思う。

主に在る出会いや交わりを通して与えられる示唆や教訓や感化が、聖化の理解と体験にいかにか大きな影響をもたらすかは、聖徒たちの生涯において見られる通りである。

出合いや交わりを、「働き」の付録的なものから一歩進めた位置づけにする事は出来ないものであろうか。

(札幌聖化大会事務局長 高橋義二)

総務レポート

▼JHAの働きの中で重責を担って来られた本田弘慈先生、松木祐三先生を今年、相次いで天にお送りし、大きな欠けを感じます。両師が証詞された聖化の恵みを、今秋の全国各地で開催される聖化大会で宣証したく願っています。(係)

<p>●第13回九州聖化大会</p> <p>▼テーマ「きよめに生きる」</p> <p>▼日時 2002年 10月28日(月)</p> <p>▼講師 サムエル・T・カマレーソン博士</p> <p>▼会場 九州キリスト教会館(福岡市)</p>	<p>●第15回東海聖化大会</p> <p>▼テーマ「きよめに輝く主の証し人に」</p> <p>▼日時 2002年 10月24日(木)</p> <p>▼講師 サムエル・T・カマレーソン博士</p> <p>▼会場 福音センター(イムヌエル名古屋教会)</p>	<p>●第14回宮城聖化大会</p> <p>▼日時 2002年 9月23日(月)</p> <p>▼講師 石田吉男師(基督聖協団札幌教会)</p> <p>▼会場 C・Bクリスチャンセンター</p>
<p>●第7回山形聖化大会</p> <p>▼日時 2002年 9月23日(月)</p> <p>▼講師 高地博夫師(基督兄弟団石岡教会)</p> <p>▼会場 チャーチ・オブ・ゴッド大江町教会</p>	<p>●備前聖化大会</p> <p>▼テーマ「分かち合う聖化の喜び」</p> <p>▼日時 2002年 10月27日(日)</p> <p>▼講師 サムエル・T・カマレーソン博士</p> <p>▼会場 日本イエス・キリスト教団香登教会</p>	